

[4] 支部だより

北海道支部

(H1, H3) 山田 菊子

2018年9月6日午前3時7分に北海道胆振東部地震が発生しました。最大震度は7で、大規模な土砂崩れや液状化が起きました。直後から全道が停電し、様々な活動を停止せざるを得ない状況となったのはみなさんご存知の通りです。そしてこの原稿を書いている9月12日現在、計画停電回避のために20%の節電が要請されているところですが、少なくとも札幌市内の私の周辺には普段の生活が戻りつつあります。この原稿を書いてくださる予定だった幹事の犬塚健太氏(H19, H21)が災害対応の業務に尽力されていますので、私が代理で支部の近況をご報告します。

北海道支部は現在、川合紀章支部長(54, 56)、高谷弘評議員(34)、臼井幸彦評議員(43, 45, H13)のもと、私と犬塚氏の2名を幹事として運営しています。6月末現在45名が名簿に名を連ねています。主な行事は毎年6月下旬ごろの支部会合であり、これに北海道京大会の行事や、来道される同窓生を囲む会などが加わります。2017年秋からの1年間では、2018年6月29日に「京土会北海道支部会合」を、また、8月31日には母校の小林潔司教授が土木学会全国大会に土木学会会長として来札されたのを機会に、「小林先生を囲む会」として小林研究室と北海道支部との懇親会を開催し、10名が参加しました。



6月29日に札幌で開催した「京土会北海道支部会合」(写真)には、今回も幅広い年代の11名が集まり、恒例となった名簿掲載順位の上位の方から順に近況報告をしたのち、歓談しました。今回の話題には、現在の、そしてこれまでに関わってきたプロジェクトのご経験、前年の京土会の会合を通じて知人、それも同じ組織の大先輩の知人ができ周囲に驚かれたというご報告などがありました。また、職場に、それもトンネル工場の現場に女性の土木技術者(いわゆるドボジョ)がいる、いたことがある方もおり、私が京土会北海道支部にお邪魔するようになった10年間の変化を感じるものでした。

北海道支部は大変に少人数ですが、そのおかげで、会合

でも全員と話をすることができます。この距離感を大切に今後もものんびりと活動を続けて行きます。

この度の北海道胆振東部地震では、多くの同窓生のみなさんにご心配をいただきました。お礼を申し上げます。社会では災害対応の、家庭内では平常を取り戻すため活動の最中ですが、みなさんの応援を力に引き続き前向きに取り組みます。

東北支部

幹事(H5)和田宙司

昨年から相変わらず、歴史小説と時代小説にはまっています。池波正太郎の「鬼平犯科帳」と「剣客商売」。それぞれ文庫本で25巻と19巻。そして吉川栄治の「三国志」。これは電子図書で12巻。読み応えがあります。鬼平犯科帳は度々テレビドラマ化されており、私は学生時代に中村吉右衛門版を見ていたので、文庫本を読んでみると、まさにイメージは中村吉右衛門。ドラマでもはまり役でした。三国志は言わずと知れた中国2～3世紀の魏、呉、蜀の英傑たちの壮大な歴史ドラマです。登場人物が多いので、誰かしら好みの人物が見つかるのではないのでしょうか。私は姜維が好みます。2021年の大河ドラマは明智光秀に決まりました。私は司馬遼太郎の「国盗り物語」を読んで以来、明智光秀の大ファンです。以前は本能寺の裏切り者のイメージしかありませんでしたが、国盗り物語では、明晰な頭脳で大きな志を持ち、領地には善政を敷き民から慕われるなど、彼の良いところがたくさん描写されています。まあ、歴史小説なのでどこまで史実かは知りませんが、次はそろそろ東北にゆかりのある時代小説「蟬しぐれ」でも読んでみようと思います。

さて、本題の東北支部の活動状況ですが、2月1日に新年会を開催し、18名で和気あいあいと飲み会しました。京土会東北支部はこれからも、気軽に参加できるフレンドリーな活動を続けて行きたいと思います。今回、新年会に参加頂いた方は以下のとおりです。

遠藤さん(49, 52)、小林さん(55)、山崎さん(56, 58)、



新年会写真(H30.2.1)

山本さん (56, 58), 渡邊さん (60, 62), 村井さん (61, 63), 高村さん (H1), 阿保さん (H2), 久田さん (H2), 田中さん (H3, H5), 加藤さん (H4), 和田さん (H5), 中西さん (H5, H7), 伊藤さん (H7, H9), 長田さん (H9, H11), 三輪さん (H13), 高木さん (H14, H16), 小塩さん (H26)

東京支部

常任幹事 (57) 安部 吉生

東京支部の常任幹事をいたしております, 昭和57年卒業の安部でございます。本年の総会に大石支部長の代理として, 支部報告をさせて頂きました。



東京支部の2018年度支部役員は,
支部長 大石 久和 (43)
一般社団法人全日本建設技術協会会長
代表幹事 福本 勝司 (49)
大林道路社長
常任幹事 大澤 一郎 (55)
鹿島建設土木管理本部専任部長
常任幹事 安部 吉生 (57)
大成建設執行役員土木営業本部副本部長
常任幹事 吉岡 大蔵 (H7)
国土交通省大臣官房技術調査課技術企画官
でございます。

本年も, 2018年度支部総会が6月4日(月), 学士会館にて166名の方々にご出席を賜り, 盛大に開催されました。大石支部長のご挨拶に引き続き, ご来賓として木村教授ならびに山田教授, 参議院議員の足立敏之先生, 衆議院議員の井林たつひ先生, 環境省環境再生・資源循環局長の縄田正様, 国土交通省技術総括審議官の松原裕様, 同じく関東地方整備局長の泊宏様, 大臣官房技術審議官の五道仁実様からご挨拶を頂戴しました。一時間半の和やかな懇談のあと, 陣内孝雄先輩のご発生による万歳三唱で中締めといたしました。

本会は, 数年前まで出席者が100名を下回ることもありましたが, 支部長のご尽力で近年は毎回150名を超える方々に

ご出席賜り, 支部の収支が大幅に改善された結果, 若い方々には無料で出席頂けるようになりました。また, 3年前から始めました合同二次会も盛会で, 幹事団としてはうれしかぎりでございます。

もう一つの話題といたしまして, 京都大学同窓会連絡会の活動が活発に行われています。小職は京土会東京支部代表として連絡会に出席しております。4月19日(木)の第6回連絡会は, 出口尚明連絡会代表幹事ほかの東京支部連絡会会員に, 京都大学同窓会代表幹事の徳賀芳弘京都大学副学長, 京都大学同窓会代表幹事代理の荒木茂京都大学総長特別補佐などをお迎えして開催されました。

東京におりますと, このように全学の同窓会活動が活発化するのはいかにうれしいかぎりです。加えて, 全学の同窓会組織の中でも, 医学部の芝蘭会と京土会の組織力はずば抜けていると感じます。支部ごとの定期的な総会開催, 毎年の名簿の更新と内容の充実度などは他の学部, 学科に比べて秀でており, 特に名簿の充実度は, 総会だけでなく様々な連絡や案内にも大きな力となっております。

これもひとえに本学事務局のご努力のおかげでございます。改めて, 心より御礼申し上げます。

最後になりましたが, 京土会会員の皆様の益々のご活躍, ご発展を祈念いたしまして, ご挨拶に代えさせて頂きます。ありがとうございました。

千葉支部

幹事 (H4, H6) 辰見 夕一

千葉支部では, 3月20日に千葉駅傍の京葉銀行文化プラザ内にあるレストラン「パスピエ」にて第28回目の懇親会を開催致しました。ご参加頂いた方は昭和40年卒の前川行正氏から平成19年卒の鈴木琢也氏までの計18名と今年も幅広い年齢層を交えての懇親会を行うことが出来ました。懇親会は, 参加者全員がショートスピーチで最近の近況や思いなどを自由に報告し合い, 最後に皆で円陣を組んで琵琶湖周航の歌で会を締めるといふ恒例のスタイルを続けております。ショートスピーチでは, 一人当たり3~5分程度の持ち時間で, 仕事, 趣味, 家族, 健康など多岐にわたる内



容が紹介され、毎年諸先輩方のバイタリティーの高さに刺激を受け、また琵琶湖周航の歌を皆で大きな声で合唱する様は京土会の強い絆が感じられるひとときであります。

なお、千葉支部の会場として長年愛用してきた当文化プラザが3月末で閉館になることを受け、レストラン「パスピエ」での開催は今年で最後となりました。千葉支部の常連メンバーにとっては少々感慨深いものがございましたが、次年度からはまたあらたな会場にて千葉支部員の交流を図っていきたくと考えております。



さて、本年の支部報は、毎年懇親会にお越し頂き会を盛り上げて頂いております昭和46、48年卒の中浜昭人氏に執筆をお願い致しましたのでここにご紹介させていただきます。

(46, 48) 中 浜 昭 人

京土会千葉支部の総会懇親会に出席しての、全くの個人的雑感を報告します。

ベビーブームという我々の世代も70歳に達しました。70歳といってもまだまだ元気な先輩たちが多数おられ、千葉支部の集まりにおいても我々の位置は真ん中より前にはなかなか行けない状態が続きましたが、最近ようやく出席者名簿の上位部分に載るようになりました。

若い時(?)は、ほぼ2年ごとに引っ越しをする、いわゆる「転勤族」でしたが、平成2年に千葉市に引っ越してから、千葉市から市川市へ本拠地は移転したものの、平成の時代はずっと「千葉県民」として過ごしてきました。千葉支部の総会懇親会へは職に就いていたところは事情により出たり出なかったりでしたが、最近、千葉市を訪れる数少ないチャンスでもあり、努めて出席するように心がけています。

懇親会での皆さん方からのショートスピーチには興味深いものがあります。

以前は専ら仕事関係の話や職場でのエピソードなどが興味の中心でしたが、最近、各人の趣味や余暇の過ごし方などのご披露に興味をひかれます。これも多分自分の生活リズムの変化によるもの、端的にいうと歳のせいでしょう。

それにしても皆さん方、とても良い趣味をお持ちの方が多くことに驚きます。陶芸、まさにプロの域にまで達して

おられる方、音楽、今も若々しい声で歌われる方、その他、園芸やアウトドアなどなど…。他人様に比べ突出したものを持たない自分を自覚すると、羨ましく思うとともに趣味を進化させておられる努力に敬意あるのみです。

…でもまあいいや！絶好調とは言えなくなったがそこそこの健康を保ち、ささやかながらもいろいろな美酒に巡り合い、何でもないことを語り合う仲間がおり、めったに来ないが来るたびに成長を感じさせる孫たちの声を聞き、上手くはないゴルフや囲碁に興じ、たまには旅に出て普段とは違う風土文化に接し、数坪の農園を借りて植・動物のすごさに驚き、手元には読みかけの本が何冊か転がっている…。

これらの事々に感謝し、今しばらくは引き続きこのような状況を維持したいものだというのが本音のようです。可能な範囲での努力を積み、来年もまた千葉支部の懇親会に出られるようにしたいと思っています。

新潟支部

(H20, H22) 佐藤 朋 弥

新潟支部の近況をご報告いたします。

新潟支部では3月29日(木)に新潟市内の会場にて総会を開催いたしました。今年の参加者は支部長の山内勇喜男様(40, 42)、前新潟市長の長谷川義明様(33)、支部幹事・新潟ステーションホテル代表取締役の曾根隆夫様(51)、大成建設北信越支店長の西岡巖様(58, 60)、JR東日本新潟支社長の今井政人様(61, 63, H15)、国土交通省新潟国道事務所長の大江真弘様(H9, H11)に私を加えました7名でした。昨年より参加人数は少なくなりましたが、近況報告を始めとした情報交換も活発にさせていただき、今年も賑やかな総会でありました。



今年の話は何と言っても大雪でした。全国各地で大雪・寒波による被害が発生しましたが、新潟市においては1月11日(木)の夕方から雪が強く降り始め、翌午前には80cmもの積雪を記録しました。例年の3倍近い積雪ということもあり、市内交通は大混乱。公共交通機関も運休・遅延し、車道も幅員が狭まり、圧雪による轍も多く、更には歩道を歩けな

い歩行者も列をなしていたことから自家用車による移動も困難を極めました。また、追い打ちをかけるかのように記録的な寒波も重なり、雪が融けないうちに次の積雪が始まり、雪の捨て場も無くなりました。当然、各所における経済的な負担も例年を大きく超えており、新潟市においては平成17年に広域合併して以来、過去最大の除雪費用は平成23年度の約50億円でしたが、今年はその約2倍となる105億円もの費用となりました。当分、雪は見たくありません。

その後も前新潟県知事の突然の辞職、女子児童を狙った卑劣な犯罪など、何かと悲しいニュースで新潟が全国報道されておりますが、もちろん明るい話題もあります。

4月15日には新潟駅高架化第一期工事も供用開始され、全国的にも珍しい新幹線と在来線の同一ホーム乗り換えが可能となったほか、新潟の誇る「食」と「職」をPRする空間も駅舎内で拡幅されました。日本酒のちょい飲みも可能ですので、移動の合間でも楽しんでいただけることと思います。また、本年度は新潟港開港150周年を迎える年でもあり、「みなとまち文化の発信・継承」、「国際的な物流・交流の強化」、「水辺空間の賑わい創出」などを目的として産官学民が連携して様々な事業を展開します。是非ともこの機会に新潟にも足を運んでいただければ幸いです。

最後となりますが、京土会の皆様のご活躍をお祈り申し上げ、新潟支部の近況報告とさせていただきます。

東海支部

(H7, H9) 澤 木 夕紀彦

東海支部は、愛知、岐阜、三重、静岡の4県に住所・勤務地がある会員を対象とし、毎年度総会を開催しております。2018年度も、名古屋市中区のアイリス愛知で7月11日に開催しました。本学からは工学研究科社会基盤工学専攻の岸田潔教授と音田慎一郎准教授にお越しいただきました。総会の懇親会の前に開催している講演会においては、岸田教授に「母校の近況と地盤工学に関する先端研究 - THMC連成シミュレータの開発とその実用化 -」という題目でご講演いただきました。京大における近況と桂図書館（仮称）建設についてご紹介いただいた後、シェールガスなどのエネルギー生産や放射性廃棄物の地層処分などにおいて重要な地下開発に関して、地下岩盤の長期性能の評価手法をお話いただきました。岩盤内で生じる熱 (T)、水理 (H)、力学 (M)、化学 (C) に関する現象をTHMC連成シミュレータで再現することで、岩盤内の亀裂の透水性変化等を評価し、例えばガス生産効率の把握などができるといった興味深い内容であり、エネルギー分野の他、中央新幹線でも重要なトンネル工事など様々な場面での活用が期待されます。

総会参加者はここ数年微増の傾向にあり、2018年度は50名余のご参加をいただきました。当支部では、より多くの方に総会へご参加いただけるよう、総会参加費を含む会費を、業務見直しなどにより3年かけて段階的に引き下げ、5

千円としたところですが（学部卒業5年目までの方は3千円です。）、これまで参加されたことのない方も、今後ご参加いただければと思います。

ここで、東海4県のインフラ整備の状況等についてご紹介いたします。

リニア中央新幹線については、2027年の品川・名古屋間の開業に向け、用地取得や工事が進捗しています。

道路ネットワークについては、名古屋第二環状自動車道の西南部約12kmについて2020年度の開通に向け工事が進められています。この開通により、2013年に全線開通した都市高速道路と合わせたマルサ計画（注：道路網の形状がⓍに見えることに由来する通称）が完結します。

東海環状自動車道（延長約160km）は、2018年度に三重県内の6kmが開通し、開通区間が約93kmとなる見込みです。新名神高速道路（延長約150km）は、2018年度に三重県内の23kmが開通し、開通区間が約113kmとなる見込みです。新東名高速道路（延長約253km）は、2020年度全線開通の予定で静岡県・神奈川県区間の工事が進んでいます。

中部国際空港（セントレア）は、国際線のインバウンドが6年連続で前年度を上回り、2017年度も過去最高を記録するなど好調に推移しています。空港島では、2019年9月に国内初の国際空港直結の展示場「Aichi Sky Expo」（展示面積6万m²）がオープンする予定です。二本目滑走路を始めとする機能強化（完全24時間化）が課題であり、早期実現に向け機運の高まりが期待されています。

これらの交通インフラの整備は、移動時間の短縮等による大きな経済効果を生み出し、人の交流を活性化させ、地域の向上にもつながるものと思います。さて、2018年度上半期放送のNHK連続テレビ小説「半分、青い。」は、京都大学のネタも登場しましたが、岐阜県が主な舞台となるドラマで、この地域の新聞ではロケ地の話題がしばしば掲載されました。また、関ヶ原合戦420周年にあたる2020年の大河ドラマ「麒麟がくる」は明智光秀が主人公であり、岐阜県や愛知県が舞台となることが予想されます。中部北陸圏の知名度向上を図り、海外からのインバウンドを推進する「昇龍道プロジェクト」の取り組みが進められているところですが、テレビドラマでも注目を集めることで、当地域の魅力がより高まるのではないかと期待します。当地域の観光施設としては、夏休み期間のレジャー施設で見ると、三重県のナガシマリゾートが2018年までの12年間、最も集客数が多い状況ですが、新たな施設では、名古屋城において、飲食店が並ぶ「金シャチ横丁」が2018年3月にオープンするとともに、戦争による焼失後、2008年度から行われてきた復元の完了した本丸御殿が6月から公開されています。また、2005年開催の国際博覧会の会場であった愛・地球博記念公園には、2022年度に「ジブリパーク」が開業する予定であり、楽しみな状況です。

東海地域においては、様々なプロジェクトが進んでいる

ところであり、今後も意欲的に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

長野支部

幹事 (61) 青木 謙通

長野支部は、平成28年度の京土会総会で承認された発足後間もない支部です。周りを東京、新潟、東海、北陸の4つの支部に囲まれ、長野県に在住、在勤する会員により構成される小規模な支部です。

さて、本年2月に開催された平昌オリンピックでの選手の活躍は記憶に新しいところです。遡ること20年前、1998年(平成10年)に開催された長野オリンピックを契機に、長野県に北陸新幹線や上信越道・長野道などの高速交通網が暫定的に整備をされました。約3年前、平成27年3月には北陸新幹線が長野から金沢まで延伸され、延伸区間内で県内唯一である飯山駅が開業をしました。また、リニア中央新幹線の品川・名古屋間の工事実施計画が国土交通大臣に認可され、9年後の2027年の開業を目標に、トンネル工事などに着手をしたところであります。県南部の飯田市には、新幹線駅が設置される予定で、開業後を見据えたまちづくりの取り組みが活発となり、今後の発展に期待が寄せられています。

支部の活動については、年1回の総会を開催するとともに、会員の要望に基づいた活動を展開する予定であります。長野県に在勤、在住する京土会員で支部活動のご案内をお届けできていない方は、お手数ですが下記担当者までご一報をお願いいたします。昨年は、支部報告を見たということで2名の方より、入会希望が寄せられました。紙面をかりて感謝申し上げます。

結びに、120周年を迎えた京土会並びに会員の皆様方のご活躍とご発展を祈念し、支部の近況報告といたします。

連絡先(勤務先)

〒380-8570 長野市南長野幅下692-2
長野県 建設部 技術管理室 青木 謙通
電話 026-235-7294
Mail: aoki-kanemichi@pref.nagano.lg.jp

北陸支部

(H4) 市 森 友 明

北陸支部は、富山県、石川県、福井県の3県にまたがる地域であり、平成30年7月現在で99名の会員を有しています。

1. 北陸支部第32回支部総会

北陸支部第32回支部総会は、平成30年6月30日(土)、富山市の自遊館で開催されました。各県担当幹事の皆様のご協力もあり、3県から29名の会員にご参加いただきました。

はじめに金沢大学名誉教授 北浦勝支部長(42, 44, 47)のご挨拶をいただき、その後、開催県を代表し、北陸コンサルタント株式会社(元富山県土木部長)の井波久治様(48, 51)から開会のご挨拶をいただきました。総会では、各議案が順調に審議・承認されました。



平成30年6月30日 総会でご挨拶される北浦 勝支部長(42, 44, 47)

2. 講演会, 懇親会

総会に引き続き講演会が行われ、「富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 始動～新時代を切り拓く新たな土木系の教育と社会貢献を目指して～」と題して富山大学都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科学科長・教授 久保田 善明(20)様にご講演いただきました。



平成30年6月30日 ご講演される富山大学都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科学科長・教授 久保田 善明 様(20)

富山大学都市デザイン学部は本年度より新たに設立された学部で、その中でも都市・交通デザイン学科は富山大学で初の土木系学科となります。現在富山においても大変話題になっており、本年度から学生が42名入学されていますが、将来のインフラ系技術者の卵として、産学官各方面から大きな期待を寄せられています。更には京大系の方が多数教員として赴任されており、京土会北陸支部としても会員が増強され大変ありがたく感じております。久保田教授もそのお一人であり、今回のご講演の運びとなりました。今回のご講演では、新たに開設された学科のご紹介をはじめ、大学や学科の「知られざる、驚くべき事実」として、15項目の事実をご紹介されました。一部を以下にご紹介いたします。



平成30年6月30日 講演会の様子

- ・国立大学で土木系学科の新設は36年ぶり
- ・富山大学の志願者数、倍率は全国の国公立大学で5位
- ・都市・交通デザイン学科の第一期生の1/3は女子（14名/42名中）
- ・全学に先駆けてクォーター制（4学期制）を導入
- ・中心市街地でのまちなか事業を実施中 等々

以上、幾つかご紹介しましたが、これ以外にも様々な驚くべき事実があり、大変興味深い内容でありました。更にはこの都市デザイン学部は今後の富山大学の改革を先導する役割があり、大学としても大きな期待を寄せていることをご紹介されました。最後にJ.S.ミルの言葉「人間は、弁護士、医師、商人、製造業者である以前に、何よりも人間なのである。有能で賢明な人間に育て上げれば、後は自分自身の力で有能で賢明な弁護士や医師になるだろう」で締めくくられ、大学教育における総合教育の重要性を説いていらっしゃいました。久保田教授、誠にありがとうございました。

総会終了後、懇親会では、北浦勝支部長に開会のご挨拶、富山大学副学長大学院理工学研究部教授 中川大様（54, 56）にご挨拶をいただき、金沢大学名誉教授/北陸電力(株) 技術顧問の石田啓様（47, 50）の乾杯で開宴となりました。宴会中は年に一度の顔合わせということで、恒例の各自の近況報告もあり、様々な話題で大いに盛り上がりました。

最後に次回開催の福井県を代表し、前田建設工業株式会社関西支店福井営業所技術顧問 橋本栄治様（52）のご発声中締めとなりました。

3. おわりに

平成27年3月に北陸新幹線が開業し3年余りが経過しました。東京とのアクセスは各段に向上しているだけに、いつも申し上げますが、平成34年度敦賀延伸、大阪までの新幹線開通が待ち遠しい限りです。開通後は、小浜－京都は19分、福井－大阪は55分で結ばれ、福井は完全に関西圏の通勤・通学範囲に入ります。観光客やU、J、Iターンも増加すると思われれます。北陸地域の発展のため、我々北陸支部会員はそれぞれの立場で切磋琢磨していきたいと考えております。

最後になりますが、北陸支部は富山大学都市・デザイン学科の教員様の影響もあり、100名規模にまで会員数が増え

ました。石川県と富山県では既に京都大学全体の同窓会も立ち上がっており、京都大学関係者の交流も益々活性化しております。京土会の皆様、是非ともこの北陸に足をお運びいただければ幸いです。今後とも北陸支部をよろしく願いたします。



平成30年6月30日 支部総会出席者の皆様

京 滋 支 部

支部長（54, 56）大 津 宏 康

本年度支部長をおおせつかりました京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻の大津です。

京滋支部の支部長・事務局は、京都市、京都府、立命館大学、京都大学の輪番で担当することが慣例となっており、今年度は、昨年度の立命館大学から私どもが引き継いでおります。

支部の行事につきまして、昨年度は、平成29年11月7日（火）、田辺カントリー倶楽部において、第38回石原杯争奪ゴルフ大会を不老会コンペに合流する形で実施いたしました。また同月17日（金）には京都ガーデンパレスにおいて、41名の会員の皆様にご出席いただき支部総会・懇親会を開催いたしました。総会では冒頭、平成29年度支部長である立命館大学理工学部教授 建山和由先生から開会の御挨拶をいただき、京都大学からの来賓としてお越しいただいた社会基盤工学専攻教授 白土博通先生、および都市環境工学専攻教授 米田稔先生から、大学の近況報告や話題提供などをいただきました。

続いて、石原杯ゴルフ大会の結果が幹事の公成建設(株)の絹川定様より紹介され、優勝された安藤晴彦様（60）に優勝カップが授与されました。

この後は事務局報告を経て懇親会となり、国枝武郎様（32）に乾杯のご発声をいただき、終始和やかな雰囲気の中で一同歓談することができました。京滋支部は母校の地元でもあり、京都府・滋賀県に在住・勤務されている卒業生の方々を中心に、約1,300名の同窓生や恩師の先生方が会員として所属しています。会員の皆様におかれましては、お近くの同級生・同窓生などお誘い合わせの上ご参加いただき、懇親の場として支部総会・懇親会、石原杯ゴルフ大会をご活用いただければ幸いに存じます。

なお、大変残念ながら来賓でお越しいただいた白土博通先生におかれましては、病氣療養中のところ平成30年5月31日にご逝去されました。ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、本年は、日本において多くの自然災害が発生しました。具体的には6月の大阪府北部地震（活断層）、7月の西日本豪雨（線状降水帯）、9月の台風21号災害（巨大台風）、北海道胆振東部地震（活断層）等が挙げられます。京滋地区では、7月の西日本豪雨による由良川流域での内水反乱、および各地での土砂災害、また9月の台風21号災害では風水害に加えて、電柱の破損による長期の停電が発生しました。これに加えて、関西空港の閉鎖という未曾有の事態の発生により、航空物流の混乱や訪日外国人客の観光キャンセルなど、幅広い産業への影響が深刻化しました。これらの事例は、個別インフラの安全性のみならず、高度にネットワーク化されたインフラ構造物のシステムの安全性をも考慮した、強靱な国づくりの重要性を再認識させたものと考えられます。

さらに、今後気候変動によると推定される線状降水帯に起因するゲリラ豪雨、および超巨大台風の発生頻度の増加に加え、直下型地震に加え近い将来東南海地震の発生が想定される状況下において、インフラの整備に関わる我々京土会関係者の責務は益々高まるものと考えられます。

最後に京都大学の近況についてですが、近年は「国際化」への取り組みを積極的に展開しています。京土会会員の皆様に多大なご支援をいただいている地球工学科国際コースには、平成23年春のスタート以来、平成30年4月には8期生が入学し、卒業生が社会で活躍を始めています。また、海外での教育研究活動も積極的に展開しており、日本学術振興会 大学の世界展開力強化事業によるアセアン諸国の連携大学との双方向国際インフラ人材育成プログラムの展開、JICA ミャンマー工学教育拡充プロジェクトへの参画、中国・深圳、マレーシア、ベトナム・ハノイ、タイ・バンコク等での海外拠点の設置とこれらを活用した教育研究活動など、国境の垣根なくリーダー、プロフェッショナルとして活躍しうる人材の育成に一層力を入れて参る所存です。

以上、簡単ではございますが、京滋支部の近況報告とさせていただきます。

奈良支部

支部長 (56, 58) 金剛 一智

「行基さん生誕1350年」を活動の柱に

奈良京土会は昭和58年に発足し、県在住か県内に勤務されている方で構成されています。本年度で設立35年になります。奈良という歴史的な環境を活かして毎年散策会を開催し、ご家族を含め会員の親睦を深めてきました。この間、当支部の前田武志 (S37) 氏が国政で活躍されました。国土交通大臣に就任された直後に発生したH23の紀伊半島大水

害では、上総近畿地整局長 (S52) (元奈良県河川課長) とともに直ちにヘリで深層崩壊の現場に駆けつけていただきました。当時現場の土木事務所長であった私は両先輩の姿にずいぶん勇気づけられたことを覚えています。

今年の支部総会で尾田栄章氏から支部長を引継がせていただきました。微力ですが京土会の活動の一端を支えられるよう努めて参ります。尾田前会長には引き続き支部を支えていただくようお願いしています。幹事団は津風呂新幹事長のもと昨年のメンバーが引き続き事務局で残っていただきました。心強い限りです。

総会には、奥村 (S36) 尾田 (41) 二十軒 (44) 今中 (49) 稲垣 (54) 森川 (54) 村上 (55) 岩井 (55) 金剛 (56) 植田 (57) 中村 (57) 重金 (59) 津風呂 (59) 国近 (61) 岡本 (H2) 出井 (4) 渡邊 (8) 川村 (14) 濱口 (16) 樺山 (16) 各氏のご参加を得ました。植田氏、岡本氏は東京から長駆参加いただきました。森川明日香村長からは地域づくりのご報告がありました。幅広い年代が揃う賑やかな会合になりました。総会準備にご苦労いただいた幹事の北さん (S63) が仕事のご都合で欠席されたのは残念でした。



さて、2018年は「行基さん生誕1350年」にあたります。尾田前会長が提唱されているように「土木の大先達である行基に学ぶことで、土木の意義を再認識し、地域の活性化につなげていく」ことを奈良支部の特色として活動目標に掲げることにしました。10月20日には行基さんゆかりの奈良公園飛火野で開催された「行基さん大感謝祭・シンポジウム」に参加いたしました。

行基さんに関わる方々とネットワークすることで支部活動の幅も広げていきたいと思えます。奈良支部は「会員の懇親を深めること」「行基さんに学ぶこと」を大きなテーマとして、和気藹々で賑やかな支部をめざしてまいります。

大阪支部

幹事 (55, 57) 河谷 幸生

【支部活動報告】

大阪支部の幹事を務めております昭和55年卒の大阪市水道局の河谷でございます。



支部の近況についてご報告いたします。大阪支部は、大阪府、奈良県、和歌山県の3府県に在住・在勤の会員約2,200名で構成されております。

まず、昨年度の活動といたしましては、支部例会を11月29日にホテルグランヴィア大阪で開催いたしました。当日は、大西先生、禰津先生、岡先生の3名の名誉教授の先生方と京土会会長の天津先生、土木系教室から八木先生、環境系教室から高野先生、島田先生の合計7名の先生方にご臨席を賜る中、産学官から約220名のご参加を頂き、交流を深めることができました。

[幹事交代と異動報告]

また、幹事も交代し、昭和58年卒の清水建設の辻様と、河谷が新しく幹事を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、支部会員の主な方々の昨年度総会以降の異動についてご報告いたします。国土交通省近畿地方整備局では、昭和60年卒の長田さまが副局長、昭和62年卒の井上さまが企画部長に就任され、大阪府では、昭和58年卒の下村さまが都市整備部理事、同じく昭和58年卒の福井さまが都市整備部港湾局長に就任されました。大阪市では、昭和58年卒の高橋さまが都市計画局長、同じく昭和58年卒の城居さまが都市計画局理事、昭和60年卒の角田さまが都市交通局長、同じく昭和60年卒の渡瀬さまが建設局理事に就任され、堺市では、昭和52年卒の佐藤さまが副市長に就任されました。

[大阪の近況報告]

次に、大阪支部の主な動きについてご報告いたします。

○万博・IRの誘致

まず、トピックとして、2019 G20大阪サミットが大阪湾咲洲のインテックス大阪で来年6月28日、29日の両日に開催されることが決まり、この5月に府市トップ合同による第1回推進本部会議において、防災・危機管理対策等のPTが立ち上げられたところです。

一方、2025日本万国博覧会の誘致活動は、去る3月にBIE(博覧会国際事務局)調査団が審査のため来日するなど、今年11月の開催国決定に向けて佳境を迎えておりますとともに、その開催予定地にはIR統合型リゾートの誘致も進められており、これらが実現すれば、地下鉄延伸や道路整備など、夢洲まちづくりの大きな前進が期待されます。

○PPP/PFIの拡大

次に、インフラ関連事業の民営化に向けた動きですが、昨年4月、大阪市下水道事業の運営・維持管理を担う「クリアウォーター OSAKA 株式会社」の設立に続き、この4月、大阪市営地下鉄が公営地下鉄としては初めて民営化され、大阪市が100%出資する新会社「大阪市高速電気軌道株式会社」、愛称「Osaka Metro」に移行しました。

また、関西国際空港と大阪空港を運営する関西エアポート株式会社の子会社が神戸空港の運営主体となり、関西3空港の一体運営が始まりました。

現在、国では、PFI法や水道法の改正など、コンセッション拡大に向けた取組が進められており、今後とも、PPP/PFIによる都市インフラの整備・運営の増加が見込まれます。

○鉄道ネットワークの充実

鉄道分野では、リニア中央新幹線の東京大阪間全線開業を最大8年間前倒して推進されるとともに、昨年、敦賀～新大阪間ルートが与党PTで決定された北陸新幹線延伸について、詳細ルートや駅を決める調査が進められています。これら2路線が終着する新大阪駅では、九州新幹線長崎ルートが山陽新幹線に乗り入れることと合わせて、新幹線ネットワークのハブにふさわしい結節機能強化を図る方針が出されたところです。

また、北梅田からJR難波と南海難波を結び、関空アクセス強化に資する「なにわ筋線」は、官民の事業費負担割合が確定し、2031年春の開業を目指して、新規事業採択に向けた環境アセスメント等が実施される予定です。

さらに、この4月に国土交通省から「近畿圏における空港アクセス鉄道ネットワークに関する調査」が発表され、なにわ筋線の北梅田と阪急十三駅を結ぶ「なにわ筋連絡線」並びに十三駅と新大阪駅を結ぶ「新大阪連絡線」の阪急電鉄が計画する新規2路線については、事業化に向けた良好な収支採算性が示されたところです。

大阪東部地域を南北につなぐ「おおさか東線」の放出から新大阪への延伸は今年度末の開業、北大阪急行の千里中央から箕面萱野駅までの延伸は2020年度の開業を目指して工事が順調に進捗し、大阪モノレールの門真市以南の延伸についても、今年度の都市計画決定が予定されています。

○高速道路ネットワークの充実

高速道路は、昨年8月に京奈和自動車道の御所南～五條北間が開通した他、この3月には新名神高速道路の神戸～高槻間の全線が開通し、このGW期間中の神戸～高槻間の渋滞回数は、前年同期に比べ半減しています。阪神高速は、事業中の大和川線の他、淀川左岸線2期事業では、2026年度完成に向け、堤防一体型の道路トンネルを築造する工事が今年度に着工されます。これら路線と一体で大阪都市再生環状道路を構成する淀川左岸線延伸部事業についても、ミッシングリング解消のため、昨年度に事業化され、2031年度完成に向け、トンネルの予備設計等が今年度実施される予定です。

○うめきた2期区域のまちづくり

関西再生に向けた民間都市開発プロジェクトである「うめきた地区」は、東側の先行開発区域にグランフロント大阪が開業し、西側のうめきた2期区域においても、みどりとイノベーションの融合拠点形成推進事業、新駅設置事業、JR東海道線支線地下化事業などが見込まれており、この7月に公募による開発事業者が決定し、2023年春の新駅開業、2024年夏の先行まち開き、2027年春に基盤整備事業の全体完成が予定されています。

○防災力の強化

災害対策については、南海トラフ巨大地震に対する堤防・橋梁・鉄道の耐震対策を推進しています。特に、大阪府域の津波浸水被害軽減のため、2014年度から概ね10年間で海岸・河川堤防の耐震・液状化対策を進めており、まずは水門外側など、津波が襲来する最前線の防潮堤対策について、今年度完成に向け優先的に取り組んでいます。

○公共施設の維持管理の推進

また、全国のインフラ施設全般が更新期を迎える中、早くから都市化した大阪にあっても、道路、橋梁、河川、岸壁、防潮堤、上下水道などインフラ施設の老朽化が進んでおり、公共施設の機能確保に向け、アセットマネジメントによる計画的な維持管理の推進に努めています。

○むすび

結びに、土木・環境分野では、都市の成長を支える新たなインフラ整備はもとより、防災・減災対策や施設更新対策、環境対策、インフラの整備・維持管理の生産性向上に資するイノベーションや新たな担い手の確保に向けた人材育成・技術継承など、様々な課題に直面しています。

大阪支部といたしましては、産学官が集結・率先して、これら諸課題の解決に連携して取り組み、大阪、関西ひいては我が国の成長に一翼を担えるよう活動してまいりたいと思っております。京土会の皆様方におかれましては、一層のご指導・ご鞭撻のほどお願いする次第でございます。

なお、今年度の支部総会は11月27日(火)の開催予定です。

ご清聴ありがとうございました。

神戸支部

支部長 (53, 55) 小野 憲 司

神戸支部は、兵庫県下に在住・在勤の会員約1,100人で構成されており、年に1度、支部総会・見学会などを開催しています。昨年の支部総会は、11月30日に三宮のホテルモントレ神戸において、会員約50名の出席のもと開催しました。総会には、大学から藤井 聡教授(京都大学大学院工学研究科都市社会学)、肥後陽介准教授(京都大学大学院工学研究科都市社会学)の両先生にお越しいただき、交流を深めることができました。総会に先立ち、講師としてお招きした、阪急電鉄株式会社 不動産開発部 彩都・開発企画グループ グループ長の藤村浩一(62, HI)様から、「民間事業

者のまち並みづくりの取り組み 大阪、茶屋町での事例」と題してご講演をいただきました。また、同日、開港150年を迎えた神戸港の都心・ウォーターフロントエリア(新港突堤西地区、メリケンパーク周辺など)の現場見学会も開催しました。

ここで、最近の神戸支部関係のインフラ整備等の状況をご紹介します。

道路関係では、地域発展の基盤となる基幹道路ネットワークの整備が進んでいます。新名神高速道路は3月には県内全線が開通し、中国自動車道の渋滞が緩和されるなど期待された効果が現れています。今年度からは、山陰近畿自動車道浜坂道路Ⅱ期が新規事業着手され、神戸西バイパスの有料道路事業も導入が決まりました。大阪湾岸道路西伸部は工事着手が予定されるなど、事業中路線も整備が進んでいます。播磨臨海地域道路や名神湾岸連絡線なども事業化に向けて準備が進んでいます。

港湾関係では、昨年、神戸港でコンテナ貨物取扱量が過去最高を記録しました。西日本からの集荷を継続するとともに、トランシップ貨物の集荷や東南アジア航路の拡充が図られるなど国際競争力の強化に向けた取り組みが進んでいます。

空港関係では、4月に神戸空港が民営化され、関西3空港の実質的な一体運営が始まりました。神戸空港の昨年度の利用者数と利用率はいずれも過去最高となりました。

防災・減災関係では、南海トラフ地震による最大クラスの津波に備えるため、県策定の「津波防災インフラ整備計画」に基づき、防潮堤の沈下対策等の津波対策を推進しており、平成35年度までに概ねの完了をめざしています。さらに、日本海での津波対策を推進するため、整備計画を策定し、防潮堤等の整備が進んでいます。また、土砂災害に備え、特別警戒区域の指定が加速されるとともに、第3次山地防災・土砂災害対策計画に基づき、年間65箇所で砂防えん堤等の整備が進められています。

以上が神戸支部をめぐるインフラ等の整備の現状です。

なお、7月12日には、兵庫県の設立から150周年を迎えました。記念式典を開催し、「兵庫2030年の展望」が発表されるなど、様々なイベントを開催されています。県政150年のこの機会に、ぜひ兵庫県へお越しく下さい。

本年は6月の大阪北部地震、7月豪雨など、地震や風水害により各地で被害が発生しています。近い将来発生が懸念される南海トラフ地震などによる被害を最小限に抑えられるよう、引き続き防災力の向上に取り組んでいきたいと思っております。

最後に、支部会員の益々のご活躍と京土会の発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動への引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

岡山支部

幹事長 (61) 長尾俊彦

去る6月18日に大阪府北部を震源とする震度6弱の地震が発生し、高槻市、茨木市、枚方市などで家屋倒壊等の大きな被害をもたらしました。犠牲になられました方々に深い哀悼の意を表しますとともに、被災されました多くの皆様に、心からお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧をお祈りいたします。

また、本県では、「平成30年7月豪雨」により、岡山市、倉敷市を中心に、県下全域で甚大な河川・道路の被害が発生しております。とりわけ、倉敷市真備地区では、一級河川小田川やその支川の破堤、氾濫により、約4,600戸の浸水被害が発生し、51名もの多くの方が命を落とされましたことは、誠に痛恨の極みでございます。国土交通省をはじめ関係の皆様には、緊急排水、道路啓開等の応急対応や緊急調査の実施、災害査定等に、多大なご支援をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。被災地は、ようやく本格的な復旧・復興に向けて一步を踏み出したところです。早期復旧に向け全力で取り組んでまいります。引き続き、会員の皆様からのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

さて、岡山県では、今年、瀬戸大橋と岡山空港（岡山桃太郎空港）という、広域交通を担うふたつの重要なインフラが、ともに30周年を迎えております。そこで、30年前、先輩方がどのような思いを胸に、これらの開通・開港を迎えようとしておいでだったのかと思い、1987年の京土会会報を紐解いてみました。岡山支部からの報告の中で、支部長の森忠次先生が、「マスコミをはじめ地元が、瀬戸大橋の開通だ、岡山空港の開港だと浮き立っているが、どっしりとした筋金が入っていないことが気がかりだ。本四架橋という世紀の事業が終わりに近づいているにも関わらず、地元において、土木の社会的地位が向上していない。」と指摘されておいでです。

30年の歳月を経て、瀬戸大橋も岡山空港も、瀬戸内海の島々や岡山平野北部の丘陵の風景に溶けこんだだけでなく、県民の心にも、なくてはならないインフラとして定着した感があります。一方で、この節目の年に、これらによりもたらされた恩恵の明・暗を直視しながら、道先を見据えて知恵を絞り、中四国の発展に向けた好循環を生むための、どっしりとした筋金となる戦略を提案していかなければならないと感じております。また、50年後、100年後に土木に携わられている方々のために、20世紀の大事業に土木の果たした役割を、しっかり伝えていかなければならないとも考えております。

岡山支部の近況ですが、会員数は60～70人で推移しており、平成生まれの新進気鋭の若手から各分野での豊かな学識・経験をお持ちの方々まで、幅広い年齢構成となっております。会員の異動につきましては、岡山県庁では、3月まで土木部長をお務めの田井中靖久氏（S63院）が中国地方整

備局建政部長に転出され、本年4月に、樋之津和宏氏（S59院）が生え抜きの土木部長に、また、国土交通省からおいでの原田一郎氏（H元院）が都市局長に就任され、京土会会員のお二方が県の土木行政を牽引されることとなりました。



岡山支部ではマスカットや白桃などの果物のおいしい6月と、瀬戸内の海の幸、中国山地の山の幸があふれる11月に懇親会を開催しております。本年も6月1日に、教室から立川康人先生、松中亮治先生のお二方をお招きし、支部総会を兼ねた前期の懇親会が盛大に開催されました。立川先生からは、世界で活躍できるエンジニアを送り出す国際コースの状況などを中心に、時代とともに変わっていく姿、変わらずにある姿を織り交ぜ、本学の近況をご紹介いただきました。誠にありがとうございました。また、本四公団OBの大塚様には、瀬戸大橋がICOMOS国内委員会で「日本の20世紀遺産20選」に選定されたこと、坂出工事事務所でのご苦労や楽しい思い出など、実際に工事に携わられた方ならではの貴重なお話をご紹介いただきました。懇親会には、県外からのご参加も大歓迎ですので、皆様お気軽に足をお運びいただければと願っております。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご活躍と京土会のご発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動へのご支援をお願いし、岡山支部からの近況報告とさせていただきます。

広島支部

幹事 (H9) 印居孝之

広島支部の近況をご報告します。

支部総会及び懇親会につきまして、例年7月上旬頃に開催しており、今年度も7月12日に開催を予定していましたが、7月5日から7日にかけて西日本を中心として発生した集中豪雨により広島県内に甚大な被害が発生し、被災直後ということもありやむを得ず総会は中止させていただき、その後も開催できていない状況です。

今回の豪雨により、広島県南部を中心に土砂崩れ、土石流が5,000箇所以上発生し、広島県内で100名を超える死者・行方不明者となっています。被災直後は山陽自動車道をはじめとする幹線道路、山陽本線などの鉄道、その他電気や

水道などの生活インフラなども機能しない壊滅的な状況でございましたが、被災から2か月が経過した現在、これらの施設の大半が応急的に復旧されています。これは、支部会員をはじめとする関係者の皆様のご尽力の賜物と感じているものでございます。今後も本格的な復旧、復興に向けて、支部会員が様々な分野で携わっていくことと思いますが、今後とも会員相互が協力し、一致団結してまいります。

最後に京土会会員皆様方の益々のご活躍と会のご発展をお祈りするとともに、支部活動へのご支援をお願いし近況報告とします。

山口支部

幹事長 (H3, H5, H8) 樋口 隆 哉

山口支部は、山口県に住所あるいは勤務地のある同窓生を会員とし、現在約40名の会員からなっています。会員の転入、転出が比較的少ないため、大体が固定メンバーとなっており、その分会員同士の親密な関係が築かれているといえます。会員の約4分の1は定年退職された先輩方で、悠々自適の生活を送られたり、あるいは今も現場の第一線で活躍されたりしています。あとは県庁関係者が約4分の1、山口大学など教育機関が約4分の1、民間企業や研究所が約4分の1となっています。山口支部では、1～2年に1回懇親会を開催しており、会員間の交流を深めたり情報交換を行ったりする上で貴重な機会となっています。

山口県では、これまでに幾度も7月から8月にかけて大雨による災害が起こっています。平成30年7月の西日本豪雨では、山口県内でも東部を中心に人的被害、住家被害などが生じました。今回の豪雨被害も含めて、過去の災害からの復旧に当たっては、われわれ土木関係者が官・民・学それぞれの立場から重要な役割を果たし、尽力しています。また、来るべき西日本の大震災（東海、東南海、南海地震など）への備えも県の方針で進められており、私たち会員の多くは安全な地域社会の実現へ向けてその中心的な役割を担っています。それらのための情報交換には支部の存在、すなわちお互いが顔見知り、ということがとても役立っています。小さな所帯ではありますが、しっかりとした活動を進めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

四国支部

支部長 (50, 52) 高口 秀 和

四国支部は四国4県（徳島、高知、愛媛、香川）に居住または勤務する京土会会員で構成されています。近年の会員数は150名前後で推移しており、平成30年5月現在、137名となっています。

四国支部では、例年5月後半の土曜日に支部総会を開催し

て、支部会員の懇親を深めています。平成30年度は、本学から高橋良和教授と肥後陽介准教授にご臨席いただき、香川県高松市内で5月26日に支部総会を開催しました。支部総会には、支部会員30名、支部外からも1名のご参加をいただき、本学の先生と合わせて33名が参集しました。



支部総会では、まず、事務局から四国支部の活動状況が報告され、高橋教授・肥後准教授から本学の近況を紹介いただきました。その後、懇親会に移り、それぞれが久闊を叙しながら、世代を超えて懇親を深めた後、参加者全員がお互いに肩を組み合せて「琵琶湖周航の歌」を大合唱し、参加者の団結を固め、最後に、京土会四国支部の発展を祈念して万歳三唱を行い、盛会のうちに幕を下ろしました。

四国支部では、過去数年間の支部総会参加者数が40名を下回っていることから、今後も、引き続き活性化に取り組み、会員同士の懇親を深めるための場である支部総会を盛り上げていきたいと考えています。

さて、会員の皆様の関心がおありであろう四国地方の社会資本整備について、少し触れてみたいと思います。

先般、土木学会から南海トラフ巨大地震が起きた場合、20年間に及ぶ経済的被害などが1,410兆円に上るとの推計を発表しました。また、政府の地震調査委員会は、今後30年以内の南海トラフを震源とするM8～9級の巨大地震が起こる確率が「70～80%」に高まっているとの評価結果を出しています。急がれる南海トラフを震源とする地震・津波に対する備え、河川・海岸保全施設の液状化対策など公共土木施設の耐震化や津波対策などをはじめ、「命の道」としての四国四県を結ぶ高速道路網「四国8の字ネットワーク」や緊急輸送道路の整備、また、高知港海岸三重防護も進められています。

既存ストックの有効活用の観点から、鹿野川ダム、長安口ダムの大規模な再生事業や、全国平均よりも早く人口減少と高齢化を迎える中、地域経済の活性化を図るため、道路交通網の整備に加えて海上物流機能の強化として、東予港中央地区における複合一貫輸送ターミナル整備など港湾施設の整備も進んでいます。

最後に、引き続き四国支部の活性化に取り組んでまいりますので、四国支部会員の皆さまには支部総会に積極的に参加いただくなどのご支援とともに、四国外の皆さまには四国に勤務する機会等がございましたら、四国支部総会にご参加くださいますよう、宜しく願いいたします。

北九州支部

幹事 (H21, H23) 福田 尚 倫

北九州市は、関門海峡をはさんで本州・下関市と向かい合っている。この海峡には、重要かつ長大な土木構造物が4本あり、完成年（昭和・年）順に、在来線・鉄道トンネル（下り線・昭17, 上り線・昭19）、国道トンネル（昭33）、高速道・関門橋（昭48）、山陽新幹線トンネル（昭49）が供用中である。

このうち、国道トンネルは国道2号として直轄から日本道路公団に引渡して開通。はや60年の還暦を迎えた。高速会社では、トンネル内の人道管理も含めて、維持管理に気を引き締めている。

21世紀に入って、およそ20年、公共土木施設はどこもメンテナンスの時代に入っている。

当支部定例会は、7月2日、出席者8名（会員22名）の小規模で、夕食を兼ねて小倉の料亭で開いた。1年ぶりにプライベートの近況を報告し、互いに親しむ。話題が若戸大橋・若戸トンネル（洞海湾）の無料化に及び、社会基盤のメンテナンスの必要、公共インフラの財政など、自分たちは、これにどう取り組んでいくか、議論し語り合った。



(出席者) 前列・左から 垂水, 藤井, 垣迫
後列・左から 福田, 瀧口, 森川, 吹中, 藤永

藤井 崇弘 (34, 36)

昭和36年に建設省に入省、主に道路分野で働き平成20年に退職。リタイアして10年を迎え83歳となった。最近は関連団体のOB会に出席し、存在をみせている。友人と共に北九州童謡唱歌合唱団に参加し健康を保っている。また、囲碁は五段で鍛錬中。

垂水 國博 (49, 51)

建設会社を経営、会社も安定し穏やかな日々を過ごしている。毎年妻と海外旅行に行っており、昨年はスイス、今年はフランスを訪れた。最近は散歩をして健康維持を図っている。

垣迫 裕俊 支部長 (52)

北九州市に入庁して42年目、環境、福祉などさまざまな

分野を経験し、現在は教育長を務めている。任期も残りわずか、無事に勤め上げたい。最近は高齢となった両親のことも心配。

森川 真一 (54, 56)

水道局にて水道管工場の仕事をしている。長年やってきた業務なので慣れたもの。趣味のサイクリングとマラソンは継続している。サイクリングで転んでけがをしてしまったので、今後は気を付けたい。

瀧口 将志 (H1, H4)

今年度からJR九州コンサルタントで橋梁検査の業務をしている。橋を長持ちさせるためのドクターのような仕事。また、NHKの「プラタモリ」で関門トンネルの案内役として先日撮影を受けた。7月放送予定。

吹中 範生 (H4, H6)

廃棄物発電プラントの海外展開の仕事をしている。北九州市の国際協力のもと、東南アジアをメインに活動している。趣味の自転車を始めて約10年、健康を維持している。

藤永 泰佳 (H20, H22)

国内の廃棄物発電プラントの見積りや技術プレゼン等、受注前に関する業務をしている。社外関係者と仕事することが多く、大学OB・OGの繋がりを大事にしていきたい。

福田 尚倫 (H21, H23)

廃棄物発電プラントの設計・技術開発の仕事をしている。昨年、廃棄物資源循環学会で発表し、今年も発表予定。子供が1歳になり、元気に動き回るようになって大変。

福岡支部

幹事 (H26, H29) 義 経 浩 平

福岡支部は、北九州を除く九州全域に在住・在勤の京土会会員によって構成されており、毎年総会を開催し、会員相互の親睦を深めています。

今年は大学より河野広隆教授を来賓にお迎えし、5月31日に福岡市にて支部総会を開催いたしました。総会では河野先生より土木系教室の国際化等の近況や就職状況等についてご紹介を頂きました。また、九州地方整備局の村岡猛副局長(60, 62)より、九州管内への外国人旅行者の入国数や、福岡空港の能力向上に向けた九州地方整備局の取り組みについてご紹介頂きました。今年昨年よりも多い22名の方にご参加頂き、また初参加の会員が4名もおり、大変な盛り上がりでした。

懇親会終了後に撮影した写真をご紹介します。



支部総会の参加者は以下のとおりです。(敬称略)

三池 (29), 小倉 (44), 山下 (54), 山中 (54), 千田 (57), 満島 (58), 柳橋 (59), 村岡 (60), 大野 (62), 藤巻 (H1), 三坂 (H1), 島野 (H2), 渡辺 (H4), 本郷 (H5), 岡田 (H6), 駒居 (H18), 與北 (H18), 新城 (H25), 義経 (H26), 春山 (H28), 山岡 (H28)

九州の主な動きに話題は移りますが、2017年7月5日から6日にかけて対馬海峡付近に停滞した梅雨前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込んだ影響等により、線状降水帯が形成・維持され、同じ場所に猛烈な雨を継続して降らせたことから、九州北部地方で記録的な大雨となりました。総降水量は多いところで500ミリを超え、7月の月降水量平年値を超える大雨となったところがありました。また、福岡県朝倉市や大分県日田市等で24時間降水量の値が観測史上1位の値を更新するなど、これまでの観測記録を更新する大雨となりました。この記録的な大雨により、福岡県、大分県の両県では甚大な被害が発生し、発災直後には2,000名を超える方々が避難生活を送ることになりました。

本災害は8月8日に激甚災害指定の閣議決定が行われ、公共土木施設災害復旧事業等に関する特別の財政援助の措置が適用されるなど、福岡県と国土交通省が一丸となって土砂や流木の撤去、河川の復旧などが実施されました。復旧・復興の観点から土木技術者の役割が特に大きかった一年であるかと思えます。

最後に、福岡支部の連絡先についてご案内いたします。懇親会などの支部行事のご連絡は京土会の会員名簿から九州在住在勤者を抽出しております。ご案内をお届けできていない方はお手数ですが下記の担当者までご連絡お願いいたします。

連絡先

〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号
九州電力(株) テクニカルソリューション統括本部
土木建築本部 設計・解析グループ 義経 浩平
TEL : (092) 726-1754
Email : kohei_yoshitsune@kyuden.co.jp